

フランスはアメリカの「従僕国」になる気はない —マクロン

<https://www.rt.com/news/574612-macron-michel-strategic-autonomy/>

RT

April 12, 2023

フランス大統領はアメリカを批判した後で、彼の台湾理論について念を押した。

パリは、ワシントンの同盟国だ、その「従僕国」vassal ではない、と水曜日、フランス大統領エマニュエル・マクロンは言い、アメリカと中国の間の緊張が高まったときの対処として、EUは「戦略的自立（自律）」strategic autonomy を取るべきだと持論を述べた。

「同盟国とは、従僕国という意味ではない… それは我々が自分で考える権利をもたないという意味ではない」とマクロンは、アムステルダムで行われた、オランダ首相 Mark Rutte との合同記者会見で述べた。

台湾についてのフランスの立場を問われ、マクロンは、パリ（フランス）は現状維持を支持すると言い、これは「一つの中国政策と、その立場の平和的解決を求める」という意味だと言った。

日曜日に中国旅行から帰ったマクロンは、EUは「ただアメリカの言うことを聞く」者ではありえない、台湾について緊張を煽り立てることは、このブロックの利益にはならない、と主張した。「最悪なのは、この話題について、ヨーロッパは誰かに従わねばならないかのように考え、アメリカのアジェンダと、中国の大げさな振舞いの指図を仰ぐことだ」と、彼は記者に言った。

この発言は、アメリカのフロリダ出身の共和党員で、外交問題委員の上院議員 Marco Rubio から、反発を受けた。彼は、そんなことを言うなら、ワシントンはEUを棄て、自分だけでウクライナ紛争を扱うことになると言った。

台湾の国会議長ユー・シークンは、火曜日、フランスは、そのモットーである「自由、平等、友愛」を棄て、進んだ民主国家は「他国の人民の生命や死を無視すべきでない」という原則を放棄したと言い、マクロンの発言は「疑問」だと加えた。

一方、フランスの財務相 Bruno Le Marie は、マクロンが「ヨーロッパの独立と主権を求め
るのは完全に正しい」と言い、欧州理事会議長の Charles Michel は、「EU 諸国のかなり多
くの (quite a few) 指導者たちが、マクロンと同じように自律を考えているのだが、彼ら
は物事を同じようには言わないのだ」と言った。

<https://www.rt.com/news/574612-macron-michel-strategic-autonomy/>

このフランス大統領の発言について問われたとき、米務省は、フランスは長い間の同盟
国だ、だから時々、反対意見を述べるからと言って、パリとの「深いパートナーシップ」
が崩れるものではない、と言った。EU の立場はどうかというと、ある国務省の報道官は、
このブロックの大統領 Ursula von der Leyen の、中国を評する最近の言葉を引用し、それ
は「国家と経済の安全保障への脅威」であり、この問題については、ワシントンとブリュ
ッセルの間に「広大な一致」があるのだと言った。

[訳者 Greatchain 注]

フランスのマクロン大統領の中国訪問には、成果があったと言わねばならない。これを
前の記事の「フィンランドは NATO 加盟を悔やむか？—皆が冷静になったとき」と併
せて読んでいただきたい。世界が、アメリカの仕掛けた脅しから解放されて、少しずつ
冷静を取り戻しているのがわかる。「アメリカの従僕国になる気はない」と言っているの
は、誰よりもロシア自身である。今、第3次大戦危機を迎えている、世界の終わりが始
まっているのは確かであろう。だからと言って、強大国のアメリカ（や中国）に運命を
預けなければ死んでしまう、といったものではないということである。Vassal という言
葉は、わが国の対アメリカ関係を表わす最適の言葉で、これを否定する人も国もないだ
ろう。

マクロンの言う通り、同盟国は従僕国を意味するものではない。親友というのは、一線
を引きながらも、深い敬意と愛情をもつ間柄のことであって、べたべたと仲の良い友達
のことではない。前の論文でフォードル・ルキアノフが言っていたように、倫理・道徳
に基づかない友好関係は、本物ではなく、いつ何どき、利用し利用される関係に変わるか
もしれない。それはいつ何どき人を裏切るかわからない。今わが国の付き合いしている相
手、そしてそれと同体のメディアが、その点でどれくらい信用できるかと言えば、全く
信用できないと言わねばならぬ。我々は不幸な時代に生まれついた。しかしこれは、マ
クロンなどを通じて起こっているように、一気によい方へ転ずることもあり得るだろう。
それを願って生きていきたいと思う。

参考記事：

「ゼレンスキーとその仲間が、アメリカの援助から少なくとも4億ドルを盗んだ——
シーモア・ハーシュ」

「トルコ-シリアの雪解け関係が、中東の〈新しいヨーロッパ〉への一歩となるかもしれない」

「〈ペンタゴン-リーク〉がNATOのウクライナ特殊作戦を暴露：外国傭兵の汚い仕事を隠している」

「リークされたペンタゴン文書が、ウクライナにおけるアメリカの役割の、冷めていく見方を示す」

「ゾットとする恐怖：ウクライナにおけるアメリカの生物兵器は、大規模な危険を孕んでいる」